

# 地域の防火・防災だより

青葉

AOBA

## 国連防災世界会議に参加して

(株)藤崎 執行役員総務部担当部長兼CSR室担当部長 庄子 直

昨年3月の国連防災世界会議において、弊社は青葉通まちづくり協議会と共催で「民間セクターによる減災の取り組み—防災訓練を体験する—」と題し、百貨店店内での避難・消火訓練と、周辺商店街と連携した応急救護・情報伝達訓練を、会議に参加した各国の防災担当者に公開しました。

訓練参加者は、当社と周辺の商店街や企業の従業員を併せて約300名。百貨店店内での訓練は、緊急地震速報でスタートし、揺れに備える行動、パニックの防止、防災センターからの放送に従い避難経路を確認後、お客様を店外へ誘導、避難途中で火災が発生し消火活動を行うという内容でしたが、通常の避難訓練では一連の流れで終わってしまいがちな個々の対応行動を、見学者にも理解できるようメリハリをつけて行ったことで、従業員も重要性を再認識できたものと思われます。また、お客様役に障がい者、高齢者、妊婦さん、迷子のお子様役の従業員を配し、外国人のお客様役には東北大学の留学生に参加していただき、いわゆる「災害弱者」と呼ばれる方々に対して、従業員がそれぞれのお客様の状況に応じた避難誘導を行いました。結果は、お客様役を演じた従業員にとっても、お客様の立場を理解することで次の避難訓練に生かせる多くの気付きがありました。

店外の大町アーケードでは、災害対策本部を立ち上げ事業継続計画上の初動時期の業務を行う訓練、救護センターを設置し店内及び商店街からのけが人を収容し応急処置や心肺蘇生・AEDを行う訓練、お客様の不安や一斉帰宅による混乱を抑えることを目的に、被害状況や交通機関の運行状況等を伝えるほか、外国人に対しては英語による一時避難場所を案内する訓練等を行いました。その他青葉通の興和

ビル前では、スプリンクラーや排煙設備の作動や煙の充満したテントを使った避難、地震発生時のエレベーター管制運転等を見学者に実際に体験していただきました。もちろん外国からの見学者に理解していただくため、これら一連の内容は、英語のプログラムを作成するとともに、通訳が逐次解説しました。

見学した各国の防災担当者の反応ですが、災害に対する「備え」を民間や地域レベルでどう行うべきか問題意識を持って会議に参加している方々から、今回の訓練を見学することで、よく組織された防災訓練が「減災」の取り組みとして非常に有効な手段であることが認識できたと、高い評価をいただきました。

しかしながら、弊社にとっての最も大きい成果は、従業員の防災に対する意識と対応技術の向上です。今までは自分たちだけで行っていた訓練を公開し、評価を受ける立場になったことにより、改めて訓練に真剣に向き合い、一人一人が災害時にどのように対応したらよいかを考え、実践できたことではないかと思えます。

訓練終了後、見学者からこんなメッセージをいただきました。

「命を救おうとする皆さんの努力に、心から感動しました。」

もうすぐ3月。国連防災世界会議開催から1年が経ち、そして東日本大震災から6年目を迎えようとしています。弊社はこの2つの大きな体験を忘れず思い起こし、災害に備える努力を積み重ねてまいりたいと思えます。

最後になりましたが、訓練開催にあたり数多くの皆様にご支援とご協力をいただきましたことを、心から感謝を申し上げます。



災害情報センターでは、パソコンを使いJRの運行情報を提供。外国人に対しては社員が英語で案内。



救護所でのケガの応急処置、心肺蘇生・AEDの訓練